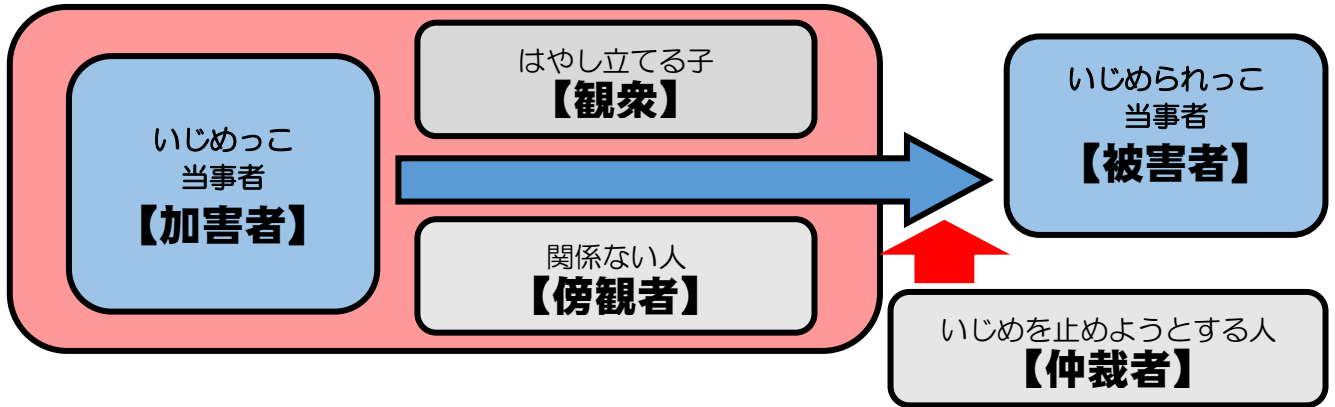




## 「いじめ」の理解を深めましょう③

### 1 いじめの構造



最近は不良行為を行う少年による単純な暴力行為だけでなく、「物をかくす」「嘲笑したりはやし立てたりする」「メールで悪口を書く」といった『心に対するいじめ』も多く発生します。いじめの多くは大人の目の届かないところで起こっていたり、被害者となった生徒もいじめられているのを隠そうとしたりすることも多く、気づいたときには大きな問題となっていることもあります。

上記のいじめの構造で示すように、いじめの構造には当事者のみでなく、関係する

取り巻きが必ずいるものです。いじめを発見した際には当然、当事者としての【加害者】には相応の指導を行います。しかし、そうした関係を知りうる【観衆】や【傍観者】に対しても【加害者】同様の指導を行っていきます。生徒には【仲裁者】となるように指導しています。【仲裁者】が多い集団ではいじめが起こりにくいデータもあります。生徒一人ひとりが周囲に目を配り、他を思いやって生活できることが、いじめのない安心したクラスになっていく第一歩となっていきます。

### 2 いじめの兆候 ～ 御家庭でもチェックしてみてください ～

- 学用品が壊れている。
- 持ち物が頻繁になくなる。
- 衣服を汚してきたり、あざや傷をつくってきたりする。
- 元気がなく、顔色が優れない。
- 口数が少なくなり、学校のことを話さなくなる。
- 登校時になると、頭痛や腹痛をよく訴える。
- 携帯電話やメールの着信音におびえる。
- 些細なことでいらいらしたり、物にあたりたりする。
- 遊びの中で笑われたり、からかわれたり、命令されたりしている。

.....キ.....リ.....ト.....リ.....  
【返信欄】